

授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態
エンドオブライフケア学実習Ⅰ (NursingCaseManagement：継続看護マネジメント/TransitionalCareの実践)	2	後期	4	実習 180時間
担当教員	長江弘子、青山美紀子、那須真弓、山田案美加			
授業概要	プライマリケア看護の実践能力として二次予防・医療、三次予防・医療を実践する。とりわけ、老いや病状変化期、治療の変化期、療養の場の変更を必要とする移行期にある個人と家族を対象に外来診療、病棟、社会支援部など退院支援部門における相談支援による意思表示支援技術の実践とそのアウトカム評価を行う。さらに、移行後の継続的支援を行い相談支援の効果や改善点を把握し地域の多職種との連携しながら症状のアセスメントと対応、医師との連携を様々な実習施設を関連させ、看護実践を行う。病院から地域へ療養の場が移行しても在宅診療部門、訪問看護ステーション等とが一体となりヘルスケアシステムを有機的に機能するよう看護実践を展開する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院から地域への療養環境の移行に際し、医療保険と介護保険、保健医療福祉制度の現状と課題の全体像を述べるができる。 2. コモンディジーズを基盤としたあらゆる健康レベル(予防、急性期、回復期、慢性期、終末期)にある小児から高齢者へのエンドオブライフケアを基盤としたナースプラクティショナーの役割を把握し、その特徴について述べるができる。 3. 様々な健康レベルにある小児から高齢者を対象にエンドオブライフケアを基盤としたナースプラクティショナーの役割(連携・調整・相談を含む)とその特徴を生かし、特に退院支援に焦点を当てた看護援助が実践できる。 			
履修条件	特論・演習をすべて合格した者			
授業計画	<p>事前準備</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生が各自の関心や目的に応じて実習計画を立案するため、以下の情報収集を行う。 (2) 実習前に、フィールドに出向き、実習施設の看護部、および診療科の医師および実習指導者と調整し実習施設の概要を把握するための基礎データ、組織体制、診療科等について把握し、実習施設の特徴を理解する。 (3) 実習施設概要、フィールド調査における情報を踏まえ、実習目的に応じた実習計画を作成する。 (4) 循環器疾患、特にその診療科で特有な疾患、および心不全の治療、看護実践における課題を先行研究および、フィールドの特色に応じて各自の関心を深める。 <hr/> <p>実習内容</p> <p>実習地域における保健医療福祉の現状と課題の全体像を把握し、急性期病院の外来、病棟、入退院調整部門、訪問診療、訪問看護と地域との連携における看護師、多職種の役割を把握し、患者の移行に合わせた患者中心のプライマリ・ヘルスケアを基盤としたエンドオブライフケア看護実践として高度な看護実践を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 急性期病院の外来や病棟、退院支援部門等で展開される循環器疾患を基盤としたさまざまな健康レベル(予防、急性期、回復期、慢性期、終末期)にある移行に焦点を当て小児から高齢者への看護援助を実習指導者(高度実践看護師)のもとで実践する。 (2) 様々な健康レベルを対象にした、小児・成人・高齢者の各事例を1事例以上選択し、看護援助として、外来、病棟、入退院支援や調整、訪問診療、訪問看護等一連の移行期のケアマネジメントについて受け持ち事例を通して実践する。 (3) 看護援助過程に用いるプライマリケア技術として、問診やヘルスアセスメントによる臨床推論を活用し情報収集・アセスメントによる問題の明確化、看護計画、実践、評価を行う。 (4) 対象者の健康レベルに応じて、医師・看護師・理学療法士等・栄養士・福祉関係者等との調整(倫理調整含む)や協働連携(相談含む)のあり方について、地域性、エンドオブライフケアを意識した看護職の役割や特徴について学修する。 (5) 実習記録として「行動計画」を作成し、実習した内容については「日々の実習記録」で整理する。本実習のまとめとして「実習レポート」(到達目標に沿う)を提出する。 (6) カンファレンスを開催し、助言を得る。 <ol style="list-style-type: none"> ①実習カンファレンス：外来指導医、専門看護師、認定看護師、入退院調整看護師、訪問診療医師、訪問看護師、実習指導教員等による中間・最終カンファレンス ②全体カンファレンス：中間カンファレンス(大学内の各領域の教員)、最終カンファレンス(実践施設の看護部長、施設の実習指導者など) 			
教科書	特になし			
参考書	適宜紹介する。			
評価方法・基準	実習への参加度(60%)、レポート(40%)により総合的に評価する。			
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。			
備考	<p>【実習場所】 亀田総合病院：総合内科、循環器外来、救急外来、総合内科病棟、循環器病棟(ICU/CCU含む)、入退院支援部、在宅診療部門、訪問看護ステーション等</p> <p>【実習指導者】 松村昭彦(医師)、水上暁(医師)、佐藤暁幸(医師)、大川薫(医師)、平野美樹(ICU/CCU病棟看護師)、吉野有美子(入退院調整看護師)、佐々木真弓(訪問看護師/訪問看護センター師長)</p>			